

# 事業の背景・目的

## これまでの取組の経緯

小諸市教育委員会では、平成 28 年の小諸市長期学校方針計画検討会を経て、平成 30 年 11 月に「小諸市学校改築・再編基本方針」を定めた。この方針を基に、より具体的な改築・再編計画の推進を図るため、小諸市学校教育審議会に諮問し、令和 3 年 4 月に「小諸市立小中学校の改築・再編について（答申）」が示された。この答申を受け、子どもの学び、成長を第一に考え、財政的な要素等も検討事項に加えたうえで議論を進め、令和 4 年 6 月「小諸市学校再編基本構想」としてまとめた。

令和 4 年 8 月には上記の基本構想を元に小諸市学校再編計画を策定するにあたり、広く市民の意見を取り入れるために、小諸市学校再編計画検討懇話会を立ち上げ、計 8 回の懇話会を開催した。これらの検討結果を受け、令和 5 年 7 月に「小諸市学校再編計画」を策定し、小諸市全体で小中一貫教育の推進に向けて取り組むことを決定した。

その後、令和 6 年 9 月に「小諸市小中一貫教育推進基本方針」を策定・公表し、施設一体型の義務教育学校を市内全校で目指すこと、併せて芦原中学校区は、令和 10 年度の開校時に義務教育学校とすることを示し、小諸市が目指す教育の実現と、よりよい教育環境整備のため、基本設計業務に着手した。

## 芦原中学校区をめぐる現状

令和 5 年 7 月策定の「小諸市学校再編計画」によると、芦原中学校区は、令和 4 年度現在で、小学校 3 校、中学校 1 校のうち、小学校は全校で小規模校となっており、そのうち 1 校は全学年が 1 クラスとなっている。R16 年には、全学年が 1 クラスとなる学校が 2 校に増える予測であり、さらに、R19 年になると、小学校は 3 校とも全学年が 1 クラスとなる予測となっている。このため、学校運営に支障が出る恐れがあるほか、教職員の負担が増加し、学習環境の悪化も懸念されることから、芦原中学校区の再編・再配置が急がれる状況にある。

## 事業の目的

本委託業務は、芦原中学校区における学校再編に関し、中学校 1 校、小学校 3 校を統合し、芦原中学校敷地内に施設遺体型の義務教育学校校舎等を整備するため、改修・増築工事に係る基本設計を行うものである。

また、学校再編に係る施設整備にあたっては、小諸市小一貫推進基本方針に示した 3 つの視点である、

- ①「対話と協働」による学びの充実
  - ②自治的・創造的な活動の充実
  - ③すべての子どもを包み込む居心地のよい学校づくり
- を具現化し、よりよい教育環境の実現を目的として取り組みを進めていくこととする。



## 現状



## 現状写真



# 与条件 / 必要諸室 / 予算 / 整備基準

## 与条件

・小諸市芦原中学校区における中学校 1 校 ( 芦原中学校 )、小学校 3 校 ( 坂の上小学校・水明小学校・千曲小学校 ) を統合し、芦原中学校敷地内に施設一体型の義務教育学校校舎等を整備する。なお、開校予定は令和 10 年 4 月とする。

- ・既存建物に関しては最小限の改修にとどめ、継続利用できるものは移設し利用する。
  - ・既存の空調設備は今だ償却期間を迎えていないことから、設置墨済の設備を活用する (FF 暖房機についても同様に活用 )
  - ・増築建物に関しては現状の配置にこだわることなく、柔軟に配置を検討する。
  - ・既存棟と増築棟との接続について、改修を最小限にし、既存棟との接続部分については漏水対策を徹底する。
  - ・ZEB 化については将来的に「ZEB Oriented 相当以上」とする。
- 今回の整備工事では既存建物を最低限改修とするため、令和 10 年 4 月の竣工時は増築棟のみ ZEB Oriented 相当以上を確保し、その他の部分については長寿命化改修時に ZEB Oriented 相当以上を確保する。

## 必要諸室

通常学級 児童・生徒構成数 :35 名× 3 クラス× 9 学年 =945 名  
特別支援学級 児童・生徒構成数 : 8 名× 7 クラス =56 名  
教職員構成数 ( 給食含む ) :77 名

クラス数 : 3 クラス× 9 学年 +7 クラス ( 特別支援教室 ) =34 クラス  
特別教室 : 英語室、理科室× 4 室、技術室、美術室、被服室、調理室、音楽室× 3 室、  
図書室・メディアセンター ( 学びの街角 )、日本語教室  
管理 : 職員室、校長室、応接室、事務室、保健室、会議室、職員休憩室、更衣室、  
放送室、印刷室、準備室、書庫  
地域交流センター : 図書スペース、遊戯スペース、創作スペース、事務室  
その他 : 多目的室、児童・生徒会室、相談室、通級指導教室、中間教室、  
プレイルーム  
駐車台数 : 100 台程度 ( 拡張敷地の整備分含む)

## 予算

整備工事に係る予算は 35 億円 ( 改修・増築、仮設校舎、外構・駐車場を含む・R6 時点 ) とする。

## 整備基準

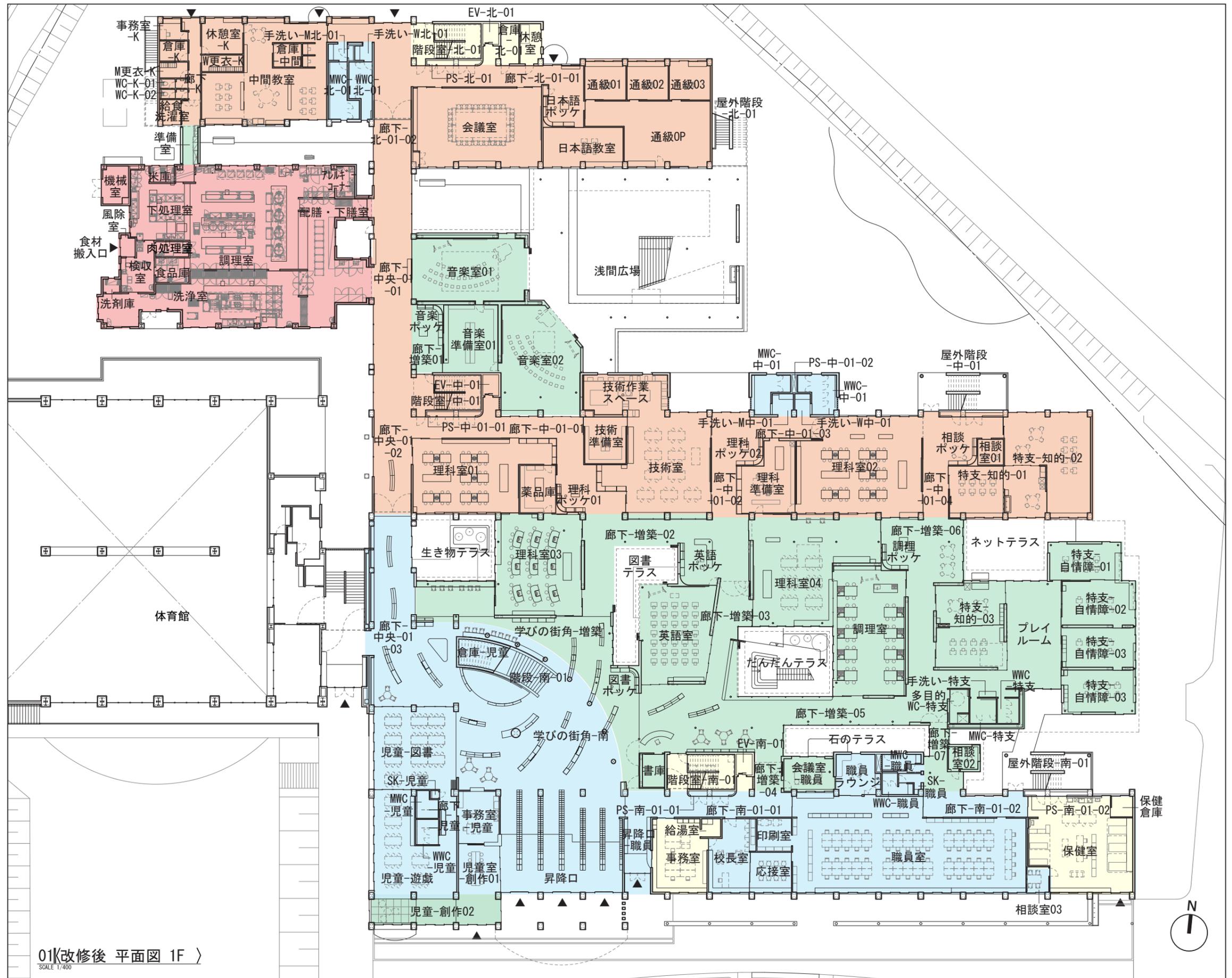
- 設備環境・・・空調・換気設備の設置 ( 既存設置部分を除く )、照明機器の LED 化、  
外灯の整備、トイレの洋式化、厨房機器の新設
- 教育環境・・・交流空間 ( メディアセンター「学びの街角」、ポッケ ) の整備  
教室内の劣化修繕、トイレ・厨房のドライ運用化、家具・校具の導入  
断熱化 ( 既存校舎一部を除く )、特別教室や特別支援教室の増設
- 外部環境・・・校舎南側の外構整備 ( グラウンドからの砂埃対策 )、駐車場の整備、  
バスロータリーの整備、コモにわの整備
- 地域連携・・・地域交流センター ( 児童の放課後の居場所を含む ) の整備

次ページ (P5~7) に改修の基準を平面に色分けして図示する。

# 整備基準 1 階

・既存校舎棟の改修レベル 4 種類と、増築棟に整理して改修内容を示す。  
 設備工事は色分けによる改修差はなく、建築工事での改修レベル差を示す。  
 共通事項として、外部に接する最上階の表し天井には断熱材を吹付する計画とする。

- 床・壁・天井の内装を仕上・下地とも改修及び新設を基本とする。  
 壁の断熱材改修あり。  
 ガラスの改修有り。  
 (■は調理機器も新設)
- 壁・天井の内装を仕上・下地とも改修及び新設を基本とする。  
 床は仕上のみ補修。  
 断熱・ガラス改修は無し。
- 天井の内装を仕上・下地とも改修及び一部新設を基本とする。  
 床・壁は仕上のみ補修。  
 断熱・ガラス改修は無し。
- 増築部分



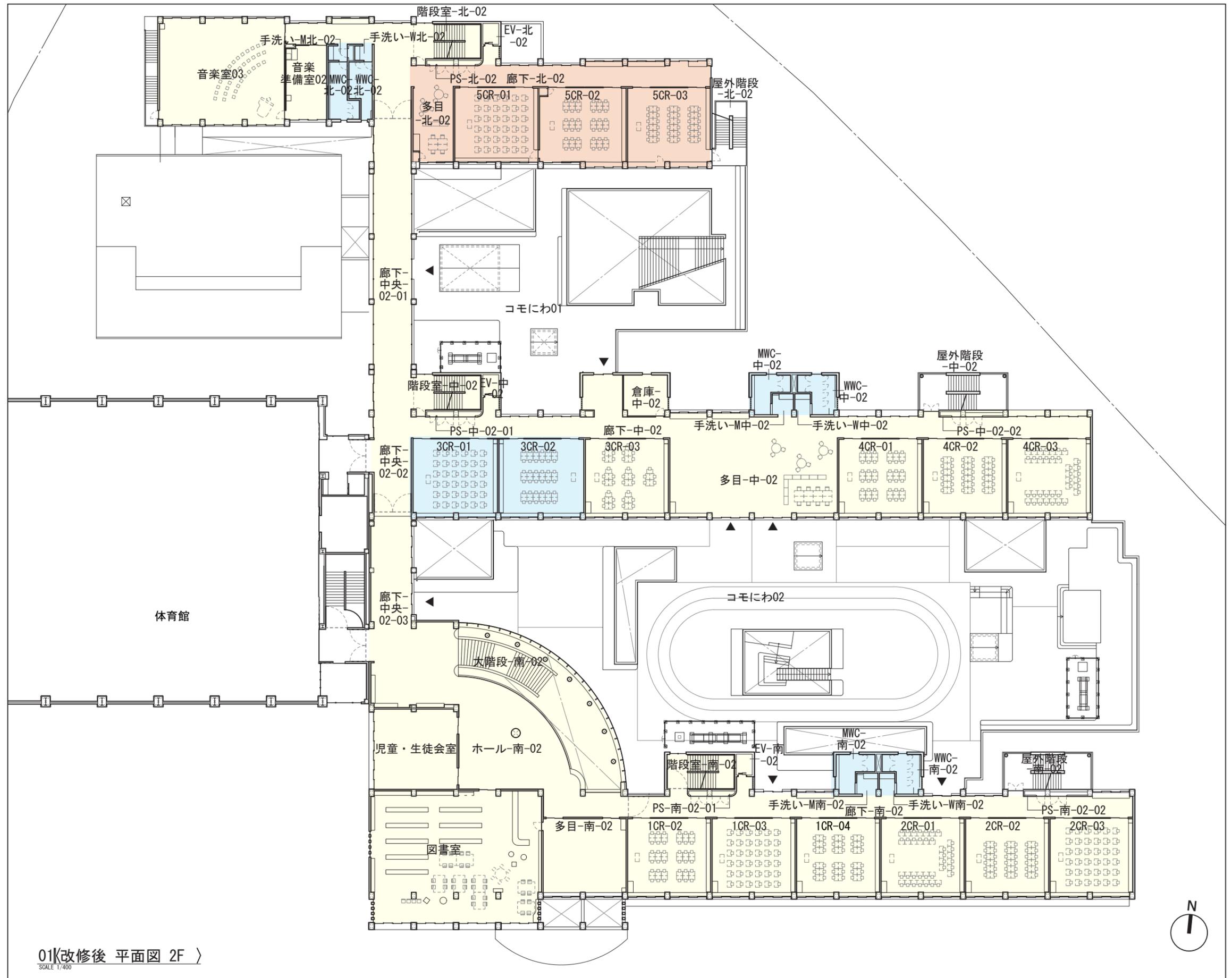
# 整備基準 2 階

床・壁・天井の内装を仕上・  
 下地とも改修及び新設を基本  
 とする。  
 壁の断熱材改修あり。  
 ガラスの改修有り。  
 (■は調理機器も新設)

壁・天井の内装を仕上・下地  
 とも改修及び新設を基本とす  
 る。  
 床は仕上のみ補修。  
 断熱・ガラス改修は無し。

天井の内装を仕上・下地とも  
 改修及び一部新設を基本とす  
 る。  
 床・壁は仕上のみ補修。  
 断熱・ガラス改修は無し。

増築部分



01改修後 平面図 2F >  
SCALE 1/400

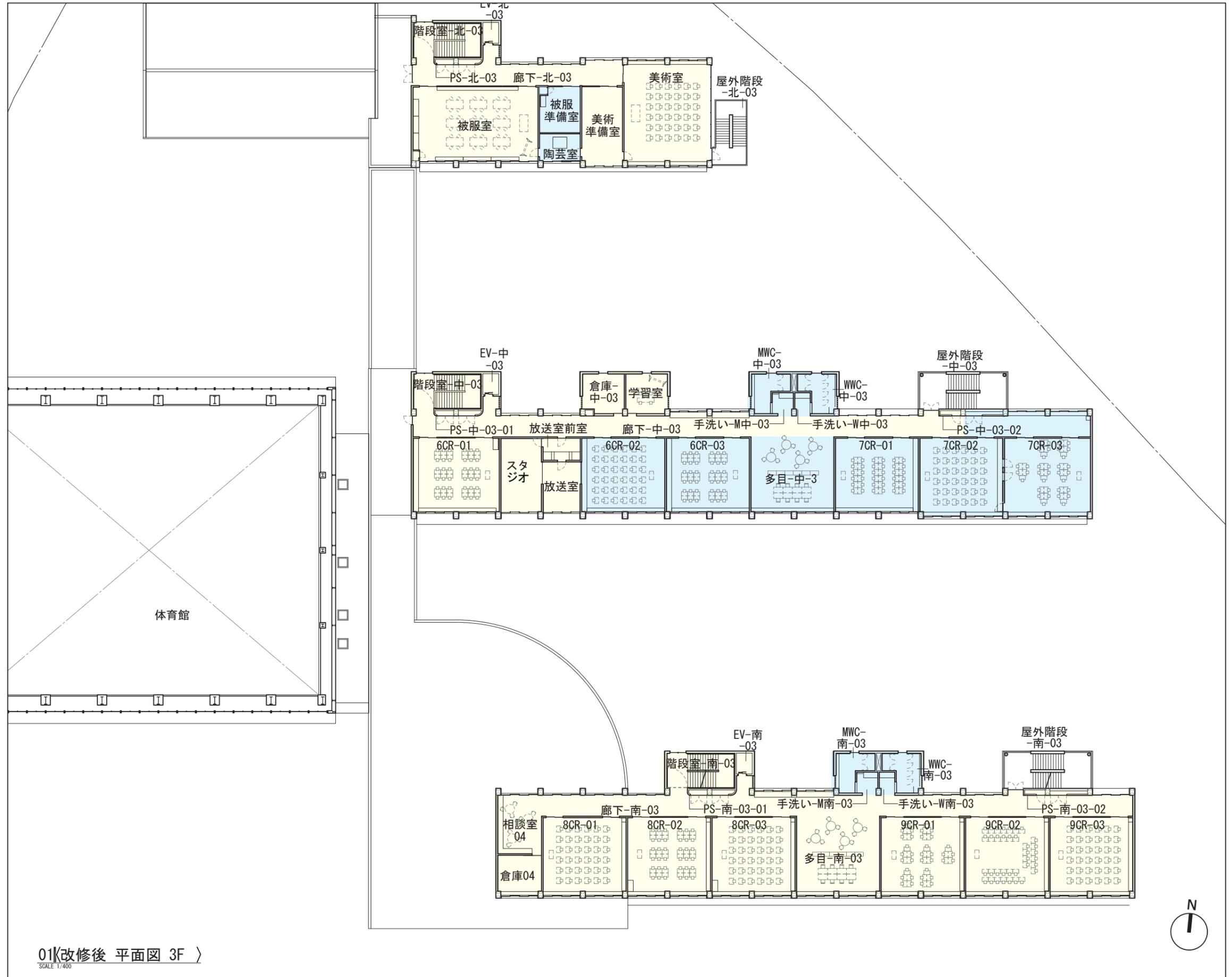
# 整備基準 3 階

床・壁・天井の内装を仕上・  
 下地とも改修及び新設を基本  
 とする。  
 壁の断熱材改修あり。  
 ガラスの改修有り。  
 (  は調理機器も新設 )

壁・天井の内装を仕上・下地  
 とも改修及び新設を基本とす  
 る。  
 床は仕上のみ補修。  
 断熱・ガラス改修は無し。

天井の内装を仕上・下地とも  
 改修及び一部新設を基本とす  
 る。  
 床・壁は仕上のみ補修。  
 断熱・ガラス改修は無し。

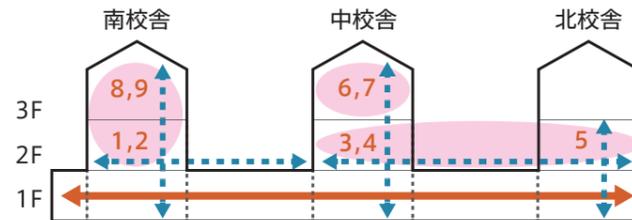
増築部分



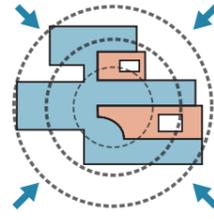
# 設計趣旨

## 9年間の成長に合わせた掘り所を持つ街のように広がる学校

既存4校が一処に集まるメリットを最大化した、9年間の学びが展開する学校とする。  
既存校舎を利用しながら1階の中庭に増床することで、コンパクトでありながら平面的な広がりをもつ学校を計画する。



大きく広がる1階 / 成長に合わせたゾーニング



コンパクトな配置

### 街のように広がる1階の空間

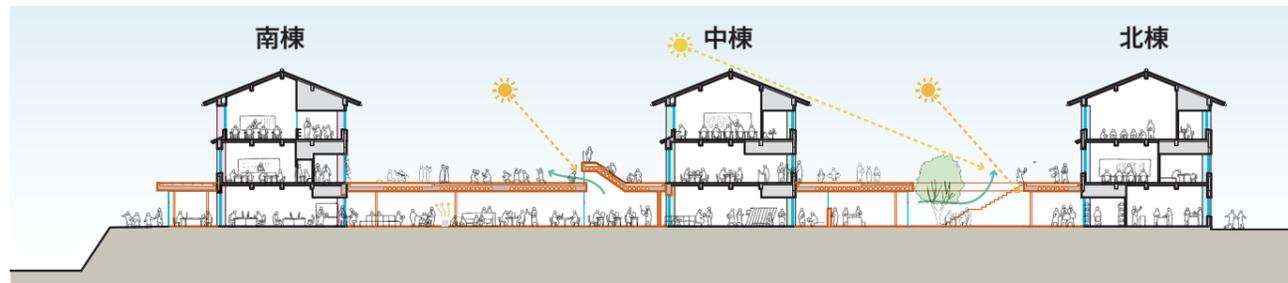
既存校舎棟の中庭に平屋の増築をすることで、平面的に広がりのある空間を計画する。1階の昇降口付近の「学びの街角」を中心に学校全体に広がる空間には、特別教室、特別支援教室、職員室、地域交流センターなどを配置し、異学年、先生、地域の方々との交流を生み出す計画とする。また、既存の中庭に増築をすることで、教室移動の動線が短くなりとともに、動線の選択肢も増えることで豊かな学びの場が展開する計画とする。

### 学びの街角

1階の昇降口付近を中心に広がる「学びの街角」は、本棚やソファ、テーブルを置くことで、様々な活動や異学年の交流をうみだす。

### 2階のテラス

2階に日当たりの良いテラス「コモにわ」を計画する。2階の各棟からの出入口を設け、異学年交流の場を創出する。



### 1階のテラス

それぞれに特徴を持った学びの場ともなる光庭を分散配置することで、通風、採光を確保します。

### 外皮の最小化 (建築計画による省エネ)

1階の中庭に増床することで外皮を最小化し、空調負荷を低減する建築計画とする。

### 教室まわりの空間・領域を豊かにする

- ・1階の特別教室周辺の随所に児童生徒の居場所となる「ポッケ」設けることで、多様な学習環境に対応できる計画とする。近接する特別支援教室に関連する専門図書や展示を行い、児童生徒の興味を刺激する空間でもある。
- ・2、3階の一部に「先生コーナー」を設けることで、先生と児童生徒のコミュニケーションの場を創出する空間を計画する。

### すべての学年があつまる昇降口

各学年の昇降口をまとめて計画することで、交流を生む計画とする。

### 家具・校具を導入して豊かにする

家具・校具が学習行為のきっかけとなる。ワークスペースを豊かにそして有効に利用し、学級、学年を超えた交流をうみだす。

### 地域交流センター

地域交流センターは地域の方々の利用、学習ボランティアの控室、放課後の児童生徒の居場所として計画する。日中は学校の機能としても利用する計画とする。様々な活動の場とする。

### ユニバーサルデザイン

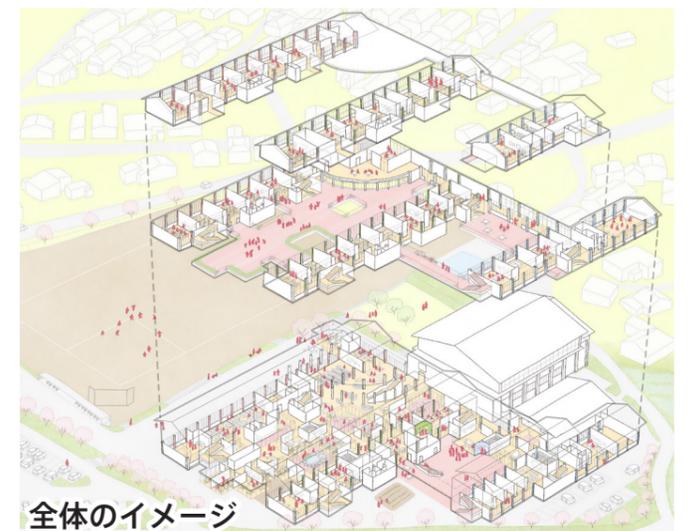
わかりやすいサイン計画や建物内及び外部との接続部には段差を極力設けない計画とする。

### 子どもの成長や環境に配慮した教室配置

- ・1階は職員室等の管理諸室、特別支援教室、特別教室、地域交流センターなどを配置。
- ・2、3階は各学年の教室と、一部の特別教室を配置することで、各教室から1階の教室までの動線をコンパクトでわかりやすい計画とする。

### 建設事業費の効率化

教室の重ね使いにより面積の効率化を図る。増築部分は平屋とし、杭が不要な計画とする。



# 計画概要

## 業務概要

本業務は、芦原中学校区における学校再編に関し、中学校1校(芦原中学校)・小学校3校(坂の上小学校・水明小学校・千曲小学校)を統合し、芦原中学校敷地内に施設一体型の義務教育学校校舎等を整備するため、改修・増築工事に係る基本設計(意匠、構造、積算、電気設備、機械設備および外構)を行うものである。

## 敷地概要

### ■敷地概要

#### 1. 敷地概要

- ・住所 : 長野県小諸市新町二丁目 346-1 他
- ・敷地面積 : 約 40,480m<sup>2</sup>
- ・用途地域 : 第1種住居地域、第2種住居地域
- ・建ぺい率 : 60%
- ・容積率 : 200%
- ・防火指定 : なし
- ・高度地区 : なし
- ・日影規制 : 平均地盤面からの高さ 4m 規制時間 4h / 2.5h

#### 2. 敷地周辺の状況

- ・隣接道路 : 北 -8m/ 東 -13m/ 南 -16m/ 西 -4m

### ■計画建築物概要

#### 1. 規模

- ・規模 : 地上3階(既存部)/地上1階(増築部)
- ・構造 : 鉄筋コンクリート造
- ・建築面積 : 5,387m<sup>2</sup>
- ・延べ面積 : 13,917m<sup>2</sup>

#### 2. 建築物用途

- ・義務教育学校 / 集会場等
- ・駐車場

## 配置図



- ・駐車場は歩車分離を基本とし、芦原中学校校舎東側の拡張敷地と校舎北側に整備する。
- ・昇降口は教職員が職員室から児童生徒の登下校を見守ることができるよう、セキュリティに配慮した計画とし、現在の芦原中学校と同様に校舎南西側に整備する。
- ・地域交流センターの出入口は昇降口西側に隣接して設け、児童生徒と地域の方々との交流が誘発されるように配置する。
- ・中間教室や通級指導教室の出入口は、教室を利用する児童生徒の登下校時への配慮として、校舎南西側の昇降口とは別に校舎北側に整備する。

# 内観図 「学びの街角」



# 内観図 「理科室 04」



# 内観図 コモにわ

